

○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

| I. 最重点目標(成果測定指標) | | | | | | | | | | | |
|----------------------|--|----|----|--------------|-------|------------|------|--------------|--------------------|------------|---|
| 戦略目標 | 成果測定指標 | 新規 | 単位 | ウエイト (R1) | H30実績 | R1目標 | R2目標 | ウエイト (R2) | 中期経営計画 (H29～R3) | | R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載 |
| | | | | | | 実績[見込] | | | R2目標 | 最終年度 目標 | |
| ① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成 | 千里ライフサイエンスセミナーの広域的参加者率 (京阪神以外からの参加者数/全参加者数) | | % | 25 | 19.6 | 20 21.8 | - | - | - | - | - |
| | 千里ライフサイエンスセミナーの参加者数 | | 人 | 5 | 918 | 900 959 | ↓240 | 30 | 900 | 900 | ・第一線の専門家・研究者を講師に招き、先端的な研究をテーマに最新の研究成果・動向等を紹介・発表することにより、より魅力的なセミナーとしていくとともに、積極的PRを通して参加者数の安定的確保に努めることとするが、感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、1講演の参加者数を80人とする。また、既に開催中止を決定した2回のセミナーは来年度に開催することとし、R2年度のセミナー開催は3回とした。 |
| 法人経営者の考え方(取組姿勢・決意) | | | | | | | | | | 具体的活動事項 | |
| 最重点とする理由、経営上の位置付け | <p>○財団は設立当初より、ライフサイエンス分野の発展を担う創造性・独創性豊かな産・学・官の研究人材の育成・質的向上を支援する事業を特に重要な事業と考えている。</p> <p>○前計画(H24～H28)の実績を見ても千里ライフサイエンスセミナーや新適塾の参加者満足度調査とともに一定の評価が確立してきた。そこで千里の地から全国への情報発信を狙いとし、旬のテーマを選び全国の第一線の研究者を招いて実施しているセミナーを最重点目標としたい。</p> <p>○この場での触発を通じ、新たなイノベーションを生み出す若手研究人材の裾野を広げていくことこそが、財団の設立精神である「知の交流拠点」を実現したものであることから、産学官の研究交流促進と研究人材の育成を目指したセミナーへの参加者数を、最重点の成果測定指標とした。</p> | | | | | | | | | | |
| 最重点目標達成のための組織の課題、改善点 | <p>○企画委員会で各委員(アカデミア・企業の21名)から旬のテーマ提案を募り、協議の上、毎年5テーマを選定し、これらのテーマに関する日本を代表する研究者をコーディネーター候補に選定。当該コーディネーターに、発表者選定を委任する運営を確立し、魅力あるセミナーの企画を行っている。</p> <p>○今後も、積極的な広報活動や新鮮でエキサイティングなテーマ設定、当日の意見交換の場の確保などにより、参加者及び満足度の安定的な確保を図るとともに、全国的なライフサイエンスの拠点として広く認知され、より幅広い人材の交流がなされるよう、取り組んでいく。</p> | | | | | | | | | | <p>○セミナーの個別テーマについては、企画委員会で十分協議し、各テーマと担当コーディネーターを具体的に選抜。</p> <p>○北海道から九州まで各大学、研究機関の第一線研究者から選抜し、全国から幅広く参加者を募っている。また、若手研究者からの発表も可能となるよう、発表時間(短時間)を工夫している。</p> <p>○セミナー参加者の増加に向け、関係する学会誌・業界専門誌及び各ホームページなどへの無料掲載等により周知・広報に努めている。</p> |
| 活動方針 | ○事業の企画等を検討する企画委員会において、上記を踏まえた十分な検討を行い魅力ある旬のテーマ設定やコーディネーター・講師の選定を行う。 | | | | | | | | | | |

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

| 戦略目標 | 成果測定指標 | 新規 | 単位 | ウエイト (R1) | H30実績 | R1目標 | R2目標 | ウエイト (R2) | 中期経営計画 (H29~R3) | | R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載 | 戦略目標達成のための活動事項 |
|-------------------------|---|----|----|--------------|--------|------------------|--------|--------------|--------------------|------------|---|---|
| | | | | | | 実績[見込] | | | R2目標 | 最終年度 目標 | | |
| ① 産学官の研究交流促進と研究人材の育成 | 千里ライフサイエンスセミナーの参加者満足度 「大いに役立った」+「役立った」/全回答 ('大いに役立った'+「役立った」+「ふつう」) | | % | 10 | 89 | 88 | 89.3 | 10 | - | 60 | R1の実績値を目標値に設定 | 企画委員会での議論を踏まえ、コーディネーターと協議を重ね、魅力あるテーマ、講師の選定を進める。 |
| | | | | | | 89.3 | | | | | | |
| ② 優れた若手の先進的研究を積極的に支援・助成 | 岸本基金研究助成件数(中期計画期間中) | | 件 | 5 | 15 | 15 | 15 | 5 | 15 | 累計75 | 中期経営計画のR2目標値・寄付額30,000千円、1人当たり助成額2,000千円 | 審査員の負担軽減を図りつつ厳正な審査を行い、採択レベルの向上を図る。 |
| | 岸本基金研究助成応募件数 | | 件 | 10 | 234 | 250 ×196 | 215 | 10 | - | - | H30、R1の2か年実績の平均値を目標値に設定 | 財団HPで応募要領を開示するとともに、自然科学分野に関する学部・大学院を有する主要大学の学部長・研究科長に応募要領を送付し、学内での案内を依頼する。 AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。 |
| ③ 研究成果の実用化を支援 | 産学連携競争的資金獲得件数 | | 件 | 15 | 5 | 6 6 | 6 | 15 | - | - | H30、R1の2か年実績の平均値を上回る目標値に設定 | AMED等の公募情報について全国各地で説明会を開催するとともに、財団コーディネーターが獲得に向けて研究者やベンチャー企業等の相談に適宜サポートを行う。 |
| ④ ライフサイエンスの情報発信拠点づくり | 千里ライフサイエンスフォーラム参加者数 | | 人 | 10 | 690 | 740 ×730 | ↓490 | 10 | - | 800 | 感染症対策のソーシャルディスタンスに配慮し、会場を変更の上、1講演の参加者数を70人とし、7回分を見込んだ。 | 引き続き新規のクラブ会員獲得を図るとともに斬新で魅力的な講演テーマ、講師の選定を行い、積極的に参加者の募集を行う。 |
| | ホームページ総アクセス件数(月平均) | | 件 | 5 | 10,491 | 12,000 ×9,986 | 10,000 | 5 | - | 13,000 | 新型コロナウイルス感染症の拡大防止による事業中止に伴い、大きく減少した直近の実績を踏まえ、R1実績とほぼ同数の目標値を設定 | 財団HPのコンテンツ充実、新規セミナーの掲載案内、メルマガへの掲載依頼等を通じ、財団HPへのアクセス件数の増を図る。 |

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

| 戦略目標 | 成果測定指標 | 新規 | 単位 | ウエイト (R1) | H30実績 | R1目標 | R2目標 | ウエイト (R2) | 中期経営計画 (H29~R3) | | R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載 | 戦略目標達成のための活動事項 |
|-------------|------------------|----|----|--------------|-------|------------------|-------|--------------|--------------------|------------|--|--|
| | | | | | | 実績[見込] | | | R2目標 | 最終年度 目標 | | |
| ⑤ 経営基盤の強化 | 効率的・効果的な資金運用 | | 億円 | 10 | 1 | 0.9 0.92 | ↓0.85 | 10 | 0.9 | 0.9 | 長期安定を基本に効率的・効果的な資金運用に努めるが、大幅な豪ドル安が続いていることを踏まえ、目標から5百万円減0.85億円の運用益を目指す。 | 資産運用規程に基づき、長期的な観点からのより効率的・効果的な資金運用を行う。 |
| ⑥ 経営資源の有効活用 | 総労働時間(マンパワーの効率化) | | 時間 | 5 | 3,680 | 3,670 [3,663] | 3,660 | 5 | - | - | 総労働時間のさらなる縮減を目指す。 | 事務事業の効率化により、常勤職員(役員・管理職、製薬企業出向者を除く)の総労働時間数の縮減をめざす。 |

【凡例】

- ・☆はR2からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値